

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200028		
法人名	特定非営利活動法人だいこんの花		
事業所名	NPOグループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	令和5年11月27日	評価結果市町村受理日	令和6年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoQd=2190200028-00&ServiceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当施設は地域の皆様との交流を大切に、開所以来約17年にわたり地域の皆様に支えられて運営を続けております。しかしながらコロナ禍の影響でご家族をはじめ地域の方々の訪問や慰問、施設イベントへの参加などを見合わせなければならぬ状況が続いて参りましたが、本年5月にコロナ感染症が5類に見直されたことにより、訪問や交流を再開できる状況となったため、感染対策に十分に配慮したうえで、ご家族との面会や地域の文化祭への出展・見学をはじめ外へのお出かけの機会作りなどを増やしてきており、コロナ前の生き生きした運営を取り戻してまいります。

・食事は朝・昼・夜とも職員手作りにより温かい出来たてを提供しており、利用者様の健康や口腔状態、好きな食材・苦手な食材なども配慮して、美味しくいただいていたできるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、地産地消を心掛けて食事を手作りにすることに拘っている。朴葉寿司や鰻、てんぷらなど利用者の食べたい献立や晩酌したい利用者には家族に相談して提供するなど楽しめるように工夫している。職員は利用者と同じ食卓を囲んで会話しながら楽しく食事している。運営推進会議は事業所の現状や活動内容、利用者の様子などを報告し意見や要望を聞いている。桜の花見の場所を相談したところ地域の代表者より地域の公民センターの駐車場の貸し出しについて提案があり利用者と一緒に出掛けている。法人の事務長や管理者は明るく笑顔で利用者や職員に接することを心掛けて何でも相談できるような関係を築いている。職員は職員間のコミュニケーションを大切にして、職員同士が気付いたことを互いに言えて連携しやりがいを持って取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を開所以来の理念として、家庭的な居心地の良さの確保に努め、地域に愛されお役に立てる施設となることを目指している。	管理者は、利用者の生活歴を知り利用者のペースで支援するように伝えている。職員は、利用者に敬意を払い優しく接して利用者の思いやペースを大切にしている。朝夕の申し送りや職員の気付きを話し合い家庭的な雰囲気となるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で途切れていたが、地域の文化祭の開催に合わせて利用者様の状況に応じて作品づくりを行い、「NPO法人だいこんの花」のコーナーを作ってもらい作品展示をした。また、文化祭の期間内に利用者様交代で作品展見学に行き、いい交流が出来た。	散歩に出掛けて地域の方と挨拶を交わしたり、季節の野菜をいただいたりしている。地域の文化祭の実行委員会より文化祭への出展の依頼を受けて利用者と一緒に作成した作品を出展している。利用者と一緒に鑑賞に出掛けて利用者の知人に会うことが出来ている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、地域支援センター、民生・福祉委員、社協委員の方などに施設の運営状況を報告するとともに、地域の高齢者を中心にした課題や取り組み状況のお話を伺い、当施設への助言・指導をいただき生かすよう努めている。	事業所の現状や活動内容、利用者の様子などを報告し意見や要望を聞いている。議事録を出席された委員や家族全員に報告している。桜の花見の場所を相談したところ地域の代表者より地域の公民センターの駐車場の提案があり利用者と一緒に出掛けている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の関係者が運営推進会議に出席いただけることを縁に、各種報告書の提出などの折、顔の見える関係確保に努め、日頃の課題解決に向けた実践例をご教示いただくなどにより連携を図っている。	市の担当者に書類の提出や分からないことを聞きに出掛けて情報を交換している。市の担当者より生活保護の利用者の相談があり受け入れている。市の担当者が定期的に事業所を訪れた時に情報を交換している。介護相談員を受け入れたり、市主催の会議に出席したりして協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・月1回の職員ミーティングにおいて各利用者様の介護方法を個別に点検し、身体拘束になっていないか話し合っている。 ・本年度から毎月1回のペースで職員研修を行い見過ごされがちな身体拘束についても理解を図った。	岐阜県の助成金を活用して定期的に事業所で研修会を行い職員のスキルアップに繋げている。職員はスピーチロックの具体的な内容や押し付けるのでなく利用者が望む内容なのかを話し合っている。玄関ドアは施錠せずに見守れるように工夫している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待が職員と利用者様の関係だけにとどまらず、利用者様を取り巻くいろいろな環境で起こっていないかに留意をする。	ミーティングにおいて職員の日常の言葉掛けや対応など具体的な事例を挙げて虐待となっていないか話し合っている。利用者の身体に変化があれば、その原因を職員間で話し合っているが、委員会や研修会について議事録を確認することができなかった。	定期的に研修と委員会を行い議事録を作成し、虐待の防止について職員同士が互いに注意できるような体制の構築を期待する。

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には生活保護を受けてご利用いただいている利用者様が見えるが、当該利用者様の人権擁護に十分配慮して社会福祉協議会の仲立ちにより当該利用者様の人権を傷つけることなく(気づかれることなく)生活いただいている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書と重要事項説明書などの関係書類等について、各条項毎に説明し、理解をいただいたうえで契約するよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議には、家族の出席を呼びかけ、会議で出た意見の報告に努めています。 ・月ごとの利用料金をできるだけ持参いただくように呼びかけており、その折に利用者様の様子を見ていただくとともに意見や要望を伺う機会としている。	家族が事業所に来所した時や電話にて利用者の近況を伝えて意見や要望を聞いている。来所した時に利用者に会っていただくように伝えている。SNSを活用して近況や活動報告し家族から返信を受けている。自宅で収穫した季節の野菜を食べて欲しいと差し入れがあり食事に提供して利用者に伝えている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングの折に運営サイドからの報告と職員からの意見を伺う機会を最初に設けて職員意見の反映に努めている。	法人の事務長、管理者はミーティングや申し送りに参加し職員の意見や要望を聞いている。日頃から現場に入り、職員の表情から声を掛け、話しやすい雰囲気となるように取り組んでいる。職員から勤務体制やタブレットを使用して業務省力化などの提案があり反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	・介護記録の電子化を本年度から取り組んでおり、利用者様の状況が把握できやすくとともに、事務の省力化を図っている。	管理者は職員の家族構成や希望を考慮して勤務表を作成している。職員は職員間のコミュニケーションを大切にして、職員同士が気付いたことを互いに言えて、連携するように心掛けている。家族の事情で急に休む場合でも相談しやすい関係である。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月に一度の職員研修を本年度からスタートさせており、職員のモチベーションやスキルの向上に資するよう努めている。	管理者は、現場の状況を把握するために夜勤も行うようにしている。パート職員も含めて多くの職員が事業所内の研修に参加できるように時間を配慮している。休みで研修会に参加する場合は手当を支給している。新入職員には管理者がマンツーマンで指導している。	

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護職員養成の学部のある中部学院短期大学部の学生の研修を受け入れており、先生や生徒さん方との交流により情報交換につなげている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人及び施設に訪ねて見える家族や友人などから、当施設をご利用いただく前のお仕事や趣味、楽しんで見えたことなどを教えていただき、くつろぎの時間の過ごし方などに生かせるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅したい思いのある利用者様もあるが、認知症を抱えてみえる利用者様には自宅での生活が困難な状況をお話しても容易に理解いただけない。そうした中で少しでも心安らかに過ごせるよう楽しみの時間で繋いでいけるよう心がけている。	日常生活の色々な場面で利用者の思いや意向を聞いている。眠れない方は夜間にリビングや居室で思いを聞くこともある。困難な場合は、家族から利用者の生活歴を把握している。利用者の表情やしぐさから把握して連絡ノートに記入して情報を共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護への要望が多様化して来ており、本人やご家族の意向に沿える介護を見極めながら介護計画を作成し、ご家族との話し合いの機会を持ち、スムーズな介護の見直しを支援していく。	計画作成担当者は、家族に電話して利用者の状況を報告し計画への意向や要望を聞いている。職員の気付きや利用者の課題について聴取して計画を作成し、毎月の会議で話し合っている。家族に介護計画を送付し、電話で説明して同意を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護情報の職員間の共有と、利用者様ごとの中・長期の介護状況を容易に確認出来る体制が重要で、ご家族様への説明責任も果たしやすいことから、本年度から介護記録の電子化に取り組んでいる。	介護ソフトを活用して、利用者の状態やケアの内容、日常の変化、職員の気付きなどを記録している。利用者の思いや要望なども記録して情報を共有している。職員の気付きや意見を申し送りして話し合いケアの見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の引き継ぎ及び月に一度のミーティングの折、利用者様一人一人の支援課題等を確認しあい、柔軟な支援やサービスの工夫に取り組んでいる。	家族の都合で医療機関の受診に同行できない場合は職員が同行して結果を家族に報告している。家族から選挙に連れて行きたいと言われたので了承している。利用者から欲しいものを言われた場合は家族に相談して利用者と一緒買い物に出掛けている。	

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には民生委員、社会福祉協議会地域支部、福祉委員などの組織がありコロナ禍が落ち着いて安定した活動が復活してきていることから、これら地域の自治・福祉組織との協働を心掛けていく。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医(早川医院)に、月2回の往診をいただいております。各種予防接種や緊急時の往診、心配な症状の出た利用者様の診察、地域拠点病院である中濃厚生病院への紹介状などの応援をいただいております。この体制を大切にしていこう。	従前のかかりつけ医を受診する場合は家族が同行している。家族が同行する場合は利用者の状態を画面で渡し結果を確認している。不明なことは看護職員が医療機関に確認している。急病の場合は職員が受診に同行し結果を家族に報告している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域の拠点病院である中濃厚生病院への入退院を中心に、利用者様が入院が必要となった時はご家族とともに同道し、情報交換や相談、入退院の引き継ぎがスムーズに行えるよう努めている。	入院時は介護サマリーを病院に提供している。入院時の状態は家族に確認している。退院について医療機関より事業所に連絡があり、職員は退院時のカンファレンスに参加して情報交換している。家族の要望に沿ってスムーズに退院できるように取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して当GHとして出来ることを十分に説明しながら予めご家族にご理解を得ておくよう努めるとともに、ご家族の置かれた状況や本人の意向なども柔軟に受け止めて、可能な支援の継続を探っていく。	契約時に事業所の方針を家族に説明して了承を得ている。状態の変化に伴い早い段階から家族に相談して意向を確認している。医師と相談しながら事業所で出来る範囲を支援している。家族と相談しながら次への住み家に繋がるように支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者様の急変に際しては、事務所に掲出している緊急対応手順を念頭に、冷静さを失わないよう心掛け、スムーズに最善の対応に心がける。 ・職員間での連携を図り、管理者をはじめ責任ある職員の指示が得られるよう体制を整える。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災対策のマニュアルを職員間で共有するよう心掛け、必要な訓練を行うなどして実践力を身に付ける。	法人の事務長は地域のハザードマップを把握し災害を想定している。介護用品や水を備蓄しているが、夜間を想定した訓練を含めて訓練を実施することが出来ていない。災害発生時に地域住民との協力体制の構築が必要と理解しているが働き掛けが出来ていない。	運営推進会議や関係機関に相談しながら避難訓練の実施と地域住民との協力体制が構築できるような取り組みを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の居室に入るときは必ず声をかけて、目的を告げ了承を得る。布団を干すときも問いかけて、理解を得てから作業をする。お風呂に入るときも本人に入浴を勧めて同意が得られないときは見送る。など、人格とプライバシーの尊重に心がけている。	管理者は申し送り時や気が付いた時、利用者から訴えがあった時にプライバシーの確保について職員に話をしている。職員は利用者の思いやペースを大切に、気分を損ねないような言葉掛けを工夫しているが、居室のベッド横にポータブルトイレが置かれていた。	職員間で話し合い、利用者の羞恥心や自尊心を損ねない配慮した取り組みに期待する。
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の様子を見て「一緒に歌を歌いますか？それともゲームをしますか？」とか「部屋で休みますか？一緒に買い物に行きますか？」など、本人のしたそうなことを選ぶように提案するよう心掛けている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ごとに入居からある程度日にちがたつとその人に合った生活のペースが見えてくるので、全体の生活リズムとその方の生活リズムが出来るだけ調和するよう心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員の手作りで食事を提供しているが、職員や利用者様から野菜や果物などをいただくことがあり、新鮮な食材をいただきましたよと紹介して美味しくいただくよう心がけている。 ・職員の好き嫌いを出来るだけ配慮したメニューの提供に努めている。	職員は、地産地消を心掛けて食事を手作りしている。朴葉寿司や鰻、てんぷらなど利用者の食べたい物を提供している。晩酌したい利用者には家族に相談して提供している。利用者は台拭きや食器拭きなど出来ることを手伝っている。職員は利用者と同じ食卓を囲んで会話しながら食事を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間を通したメニュー表を作り、全体的に偏りがなければ複数の職員で確認しあい、バランスのとれた食事提供に心がけている。また、お茶や水の摂取状況を常に記録し、水分不足にならないよう気をつけている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様全員に食事後にうがいと歯磨きに誘導し口腔内の清潔保持に努めている。	毎食後に利用者の状態に合わせて声掛けや見守りながら口腔ケアを支援している。困難な利用者は職員が介助している。入れ歯は夜間に消毒して清潔を保持している。訪問歯科医が来所した時に利用者の口腔内の状態を確認してケア方法の指導を受けている。	

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意をもよおしたときは職員に声掛けやコールで知らせていただくようお願いし、トイレへの誘導に心がけている。また、排泄の頻度を記録し、間隔が長時間となっているときは声かけをしてみることにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の予定表は作成しているが、各利用者様にその意向を伺い、順番を入れ替えたりその日の入浴を見合わせたりして、楽しい入浴となるよう心がけている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・昼食の後などに眠くなった利用者様は次の予定まで各居室で休息をいただいている。 ・夕食の後は歯磨き、トイレなどの後、各居室でゆっくり休んでいただけるよう習慣化に心がけている。また、落ち着かないときはリビングでのくつろぎもサポートしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに各食前、食後ごとの薬を分包し、袋に表示の薬を利用者様に確認いただきながら服用いただき、チェックを入れて間違いの無いよう努めている。また、その薬の目的や副作用なども医師、薬剤師から情報をいただき説明に努めている。	誤薬のないように利用者毎に一包化をお願いしている。服薬時は、個人名、日付を確認し飲み込むまで見届けている。看護職員が原則配薬している。変更時は、職員が把握できる申し送りで繰り返し伝えている。薬の用法や副作用など薬の説明書を個人カルテに綴じて情報を共有している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・月ごとの行事や誕生日会などのイベントについて役割や楽しみ、気分転換が持てるよう心掛けている。	台拭きや食器洗い、洗濯物たたみなど利用者は出来ることを手伝っている。畑作業の好きな方は職員の畑まで一緒に出掛けている。居室で自由に新聞を読んでいる方もいる。花の本を読んだり、ちぎり絵をしたり楽しく気分転換が出来るように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・コロナ禍やインフルエンザの流行などにより、外出が積極的に出来ない状況が続いているが、食材の買い物に同行してもらったり、紅葉、菜の花、桜などの見える場所や職員の野菜畑など感染リスクの低い身近な場所への外出の機会づくりに心がけている。	桜や鯉のぼり、紅葉などを見に2～3人ずつでドライブに出掛けている。職員が食材を受け取りに行くときや併設事業所の送迎についていく方もいる。家族の協力を得て自宅に帰宅したり、墓参りに出掛けたりしている方もいる。急に外出を希望する場合は職員と一緒に散歩に出掛けている。	

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・認知症の状況により、金品の紛失や盗難など疑念を持たれることが多いため、ご家族のご理解の上で生活に要するお金の心配がないことをその都度説明して、安心して過ごしていただけるよう努めている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の会話が可能な方にはスマホをお持ちいただいている。また、家族の方と話がしたい方はその状況に応じて電話の機会を設けている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂、玄関などに季節感のある手作りの作品を順次入れ替えて飾り付け、温かみと居心地の良い空間づくりに心がけている。	リビングにクリスマスツリーやサンタクロースなど季節が感じられるように飾り付けている。地域の文化祭に出展した作品や事業所の便りを廊下に飾り会話のキッカケとなっている。職員は温度や湿度を管理し、定期的に換気を行っている。職員は声のトーンに気を付けて落ち着いて過ごせるように支援している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでくつろぐときは、利用者様それぞれの席を習慣的に位置づけ、居心地の良い場所となるようにしている。また、孤立する方の出ないよう気配りをしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に本人に親しみのあるものをもって来てもらうようお願いし、以前からの生活感が継続できるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口やトイレなどに表札等を貼り、目標物がわかるようにしている。また、安全管理及び非拘束の観点から各室を無施錠としているが、プライバシーの観点から入室時にノックをして了解後に入室するなどに努めている。		